

読み直し、書き直しを

作文の部 小網審査委員長

昨年度に続いて、今年度も作文応募の状況が厳しい中、たくさんの作品が寄せられました。関係者の皆様、各学校、児童生徒の皆さん、保護者の方々等、皆様のご協力、ご努力の結晶化と思います。

その中で、全国展において作文2部で、桜川市立雨引小学校6年の篠崎迅さんの「ぼくの勝負メシ」が内閣総理大臣賞（合わせてJ A茨城中央会長賞）を、作文3部では、筑西市立下館西中学校3年の平井華乃さんの「誕生日にはお赤飯でお祝いを」が農林水産大臣賞（合わせて茨城県知事賞）を受賞しました。7年連続の快挙であり、茨城の作文力を大いに示すことができました。

篠崎さんの作品は、大きな競技大会があると、緊張のあまり食欲がなくなってしまう筆者のために作られた栄養補給のピンポン玉サイズパワーボールについて親子の情愛やお米の素晴らしさとともに表現しています。

平井さんの作品は、尊敬する祖父の背中を見続けながら、「お赤飯」づくりを通してあたたかい家庭の様子等を真心をこめて書き留めています。

茨城県議会議員賞受賞の水戸市立常磐小学校3年菊池颯真さんの「家族がえがおになれるごはん」は、祖父の作るお米がごはんになって、先祖と家族の心を繋いでくれることに気づいた筆者の豊かな感性が伝わってくる作文です。

茨城県教育委員会教育長賞受賞の筑西市立下館中学校2年の畠山海翔さんの「僕のお茶碗と妹のお茶碗の差」は、ご飯が好きでなかった筆者が、家族との関係で大きなお茶碗で食べようと変わっていく様子をたくみに表現しています。

茨城新聞社長賞受賞のつくば市立谷田部東中学校1年小松原涼哉さんの「お米について知ったこと」は、日常の食卓から出てきた疑問をもとに、お米の歴史や自身の稲作体験、食文化、食料自給率まで考察を深めていく様子が的確に表現されています。

茨城県農業会議会長賞受賞の常総市立岡田小学校5年富田陸斗さんの「ごはんを沢山食べて『夢』を叶えるぞ」は、体格のせいであるセレクションに落選した筆者が心機一転意識してご飯を食べるようになり、自分の夢を叶えるための努力の様子を述べています。

NHK水戸放送局長賞受賞の結城市立城南小学校1年の外崎桜さんの「あまさのひみつ」は、白いごはんをよく噛むと甘さを感じることを不思議に思い、甘さの秘密を祖父に訊ねる。その秘密や祖父のやさしいおまじないが込められていることを書き表しています。

茨城放送社長賞受賞の筑西市立大村小学校4年加倉井瑛太さんの「じいちゃんの友達」は、筆者の家の田植えや稲刈りを手伝ってくれるじいちゃんの友達の農作業の様子や田んぼの情景を通して、友達の人柄や田の命、市の悲しみを深く文章表現しています。

日本農業新聞東京支所支局長受賞の五霞町立五霞東小学校2年下田美咲さんの「わたしの大好きなしんまいごはん」は、田植えの後、毎日田んぼを見に行く祖父の姿を見ながら、自分も五感を通して、田の変化に気づき、成長の喜びを体験していく姿が伝わってくる作品です。

家の光協会関東甲信越普及文化局長賞受賞の茨城大学教育学部附属中学校1年の園部唯彩さんの「今、改めて感じるお米のありがたさ」は、家庭の何気ない日常を舞台に、コロナ禍の中での家庭の様子を描き、ほのぼのとした家庭のあたたかさが伝わってくる作品です。

優れた作品は、作品を書くねらいがしっかりと把握されています。そして書いた後も読み直しや書き直しが十分にできています。題のつけ方や書き出しにも各自工夫がみられます。会話の部分もぜひ取り入れて、場面をぜひ具体的に効果的に書き表すことも大切です。今年度の作品に積み重ねをして、来年度もぜひ応募してください。楽しみに待っています。